

「こんな方が日本のリーダーであれば!」と

株式会社第一コンサルタンツ  
代表取締役社長 右城 猛

台湾を訪問し、統李登輝元総統のレクチャーを受ける幸運に恵まれた。訪問団への参加は、技術士仲間であり、坂本龍馬記念館の森健志郎館長の実弟である森直樹氏から声を掛けて頂いたのが切っ掛けである。

台湾は、1999年に921台湾大地震の調査と今年2月に観光していたが、20世紀の偉大な政治家に拝謁できると聞き、急遽、坂本龍馬財団に入会し、訪問団の一員に加えさせていただいた。

李登輝元総統の事務所は淡水にある。台北から北西の方向へ約20キロ、車で40分のところである。30階建てのビルの29階と30階が事務所になっていた。

用意された会議室で待機していると、身長186cmの大柄な李登輝元総統が、真っ白なシャツを着て背筋をピンと伸ばし、笑顔で会場に現れた。とても大腸癌の手術を受けた89歳の老人とは思えない。10歳は若い。

森館長から、「2時間を空けていただいているが、事前の打ち合わせはしていない。最初、竹内先生による龍馬甚句、いちむじんによる龍馬伝のテーマソングなどを披露させていただき、その後で”龍馬スピリッツ”といったテーマで対談を考えているが、どのような展開になるのかまったく分からない」という説明を受けていた。

李元総統は、アジアのオピニオンリーダーとして、著書や論文の執筆、講演、テレビ出演、要人との対談など超多忙な日々を送られている。それにも関わらず私たち一行35名のために、貴重な時間を割いて90分のレクチャーを予定して下さっていた。

レクチャーは、『2009年に高知へ行ったときは大変お世話になった。坂本龍馬先生の銅像に会えて大変感動した。龍馬は、幕末に黒船がやって来て開国を迫り困っていたとき、「船中八策」を考えた。政治家として学ぶべきところが多い。私は、台湾の独裁政治を民主主義に変えるのに、船中八策を参考にした。今の日本には金はあるが、教育と政治が駄目になっている。政治家は、国益と人民の幸せを第一に考えるべきなのに自分のことばかり考えている。今、世界情勢は大きく変化している。ヨー

ロッパの経済が駄目になり，アメリカの時代が終焉を迎えようとしている。これからはアジアの時代であるが，日本は衰退が始まっている。1958年のプラザ合意の失敗が大きかった。日本は中国の言いなりになっている。毅然とした態度で外交にあたらなければいけない。日本が発展するには，日台関係をさらに強化させていく必要がある。これらからの日本には，坂本龍馬の精神を受け継ぐ人が必要である』といったことを流暢な日本語で熱く語って下さった。

話の中に，ブレトン・ウッズ協定，学問のすすめの「心事の棚卸」，プルトニウムやトリウムといった極めて高度な専門用語や数値が次々と出てきた。日本のことは勿論のこと，世界の歴史，文学，政治，経済，哲学，科学など広範囲の専門的な知識を身につけられているのには驚嘆させられた。20世紀の哲人と称されていることに納得した次第である。

一貫した思想をもっておられるので発言にブレがなく，明快である。そして，とても情熱的に話される。それが聞く人の心の琴線にふれる。

李元総統の講演を直接，間近で聞くことができたことは，私にとって夢のような出来事であった。隣にいた人達が「ものすごいオーラを感じた」「鳥肌が立った」「感動して涙がでてきた」と話していた。全く同感であった。

李元総統は戦前の日本教育を受け，現代の日本人以上に「日本の精神文化」，「日本人の心」を持っておられる。国を愛し，人民を愛する気持ちが人一倍強い。このような人が日本のリーダーであればと参加した誰もが感じたことだろう。

レクチャーの後，台北市内のレストランで台湾龍馬会主催のレセプションが開かれた。台湾龍馬会の名誉会長をされている李元総統も出席して下さり，20年物の紹興酒と17年物のザ・マッカランのウイスキーを差し入れて下さった。そして，病後の身であるにも関わらず，20時40分まで約2時間，各テーブルを歩き回って，気軽に参加者との記念撮影に応じ，気さくに歓談をして下さった。

李元総統を見ていると，レクチャーの「この歳になっても人民と国のことを常に考えている。残された命を人民と国に捧げる」という言葉がより一層重く感じられた。

「目を覚ませ日本!21世紀の龍馬よ!」（坂本龍馬財団）より